

今週（12月8日から12月12日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続きビッドサイドの調達ニーズが堅調に見られ、出合いレートの水準は、0.475～0.478%程度で安定的に推移した。なお9日(火)には、一部の先から付利金利を上回る水準で試し取りが実施されたことから、加重平均レートが上昇した。

ターム物に関しては、12月会合における追加利上げ観測が一段と織り込まれる展開となつたため、1M物で0.7%台前半～半ば、2M物で0.7%半ば～0.80%程度、3M物で0.8%台前半～後半程度で出合いが散見された。

日銀当座預金残高は、8日(月)に471兆円程度からスタートしたが、その後は10日(水)の5年債発行や12日(金)の20年債発行を主因に減少傾向となつた結果、466兆円台での着地見込みとなつた。

●債券レポ市場

今週のGC T/N物のレート水準は、週を通して概ね0.50～0.51%の高めの水準で安定的に推移した。SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが軟調に推移した。

9日(火)に実施された6M物入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーでも堅調に推移した。

12日(金)に実施された3M物入札は強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーでは特段の出合いは見られなかつた。

●CP市場

今週のCP市場は、不動産、建設、卸売業などの業態で大型発行が実施された。

市場残高は、3日(水)に26兆円台まで回復したあとはやや減少しているものの、引き続き25兆円台半ば～後半での推移となつており、比較的高水準な状態が継続している。

発行レートについては、1日の植田総裁の発言以降、12月会合での追加利上げを織り込む動きが加速する展開となつた。そのため、日銀適格銘柄のレート水準は、決定会合前の期日であれば0.5%台後半であったが、決定会合を跨ぐ年内2W物では0.6%台後半～0.7%台前半、年末越えとなる1M物では0.7%前半～後半での出合いとなつた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/8 (月)	50,581.94	1.965	155.18	0.477	0.501	4,711,300
12/9 (火)	50,655.10	1.960	155.97	0.482	0.502	4,710,100
12/10 (水)	50,602.80	1.955	156.82	0.477	0.502	4,686,800
12/11 (木)	50,148.82	1.925	155.80	0.478	0.502	4,682,800
12/12 (金)	50,836.55	1.950	155.68	0.477	0.503	4,669,800

来週（12月15日から12月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

		国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/15 (月)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 10月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)			
12/16 (火)			流動性供給 12/17発行 6,500億円	11月の米雇用統計 10月の米小売売上高 9月の米企業在庫
12/17 (水)	7-9月期資金循環統計速報(日銀 8:50) 11月の貿易統計(財務省 8:50) 10月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)		TDB 1Y 12/22発行 32,000億円	11月のユーロ圏消費者物価指数改定値 11月の英消費者物価指数
12/18 (木)	日銀金融政策決定会合(1日目14:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 11月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)		TDB 3M 12/22発行 43,000億円	ECB定例理事会 英中銀MPC 11月の米消費者物価指数
12/19 (金)	日銀金融政策決定会合(2日目9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 11月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)			11月の米中古住宅販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/15 (月) 日銀予想	▲ 1,900	66,200	64,300	国債補完 貸出増加	900 ▲ 46,300	▲ 39,500 5,900	24,800	年金定時払い TDB3M発行▲43,000償還43,000 個人向け発行▲3,300償還600	
12/16 (火) 弊社予想	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
12/17 (水) 弊社予想	▲ 1,500	▲ 5,000	▲ 6,500				0	▲ 6,500	流動性供給▲6,500
12/18 (木) 弊社予想	▲ 2,000	▲ 1,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
12/19 (金) 弊社予想	▲ 2,500	2,000	▲ 500				0	▲ 500	
週間合計	▲ 8,900	61,200	52,300	—	▲ 45,400	5,900	▲ 39,500	12,800	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズの強い展開が見込まれることから、レートは0.477%近辺での推移が予想される。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは0.50%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、17日(水)に1Y物、18日(木)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場では、五・十日発行を控え、年越えの発行レート水準が注目される。

主要なイベントは、国内では、15日(月)に12月調査の日銀短観、17日(水)に11月の貿易統計、10月の機械受注統計、18日(木)～19日(金)に日銀金融政策決定会合、19日(金)に11月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、16日(火)に11月の米雇用統計、10月の米小売売上高、17日(水)に11月のユーロ圏消費者物価指数改定値、11月の英消費者物価指数、18日(木)にECB定例理事会、英中銀MPC、11月の米消費者物価指数、19日(金)に11月の米中古住宅販売件数などの公表が予定されている。（※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘導すること目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入